

1

### (1) 日本軍による「南洋」進出

#### \* 「南洋」進出のはじまり

- ・ 1914年(第一次世界大戦中)：日本海軍は南洋群島(≡ドイツ領ミクロネシア)※に進出し無血占領

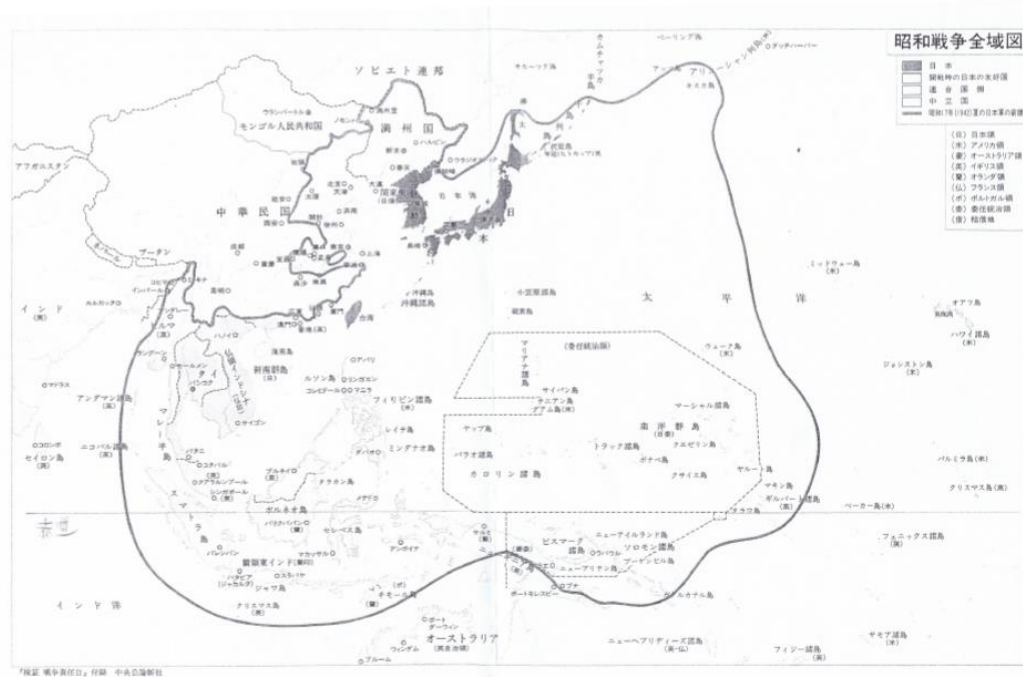
#### ※南洋群島

...太平洋西部の赤道以北の諸島群(グアムを除くマリアナ諸島、カロリン諸島、マーシャル諸島)、1885年にドイツが領土権を宣言

2

2

図1 昭和戦争全域図 [『検証 戦争責任Ⅱ』(中央公論新社、2006) 附録]



3

3

- ・戦後、ヴェルサイユ条約により国際連盟の承認を受け、南洋群島を委任統治(軍事施設の建設や軍事訓練の禁止、自由貿易への制限、土着人の利益のための教育・福祉行政の実行と報告義務あり)
- ・1933年の国際連盟脱退後、南洋群島を軍事要塞化(=「内南洋」)

4

4

### ※「南洋」進出の背景として...

- ・ 明治以降、生産量を遥かに超える過剰人口(明治初期の人口は約3,300万人)
- 海外移民・移住が課題
- ・ 欧米列強が植民地拡大競争を繰り広げる国際環境

⇒「南洋は、貿易・産業・移民を行うにとっても有望なところで、開発競争で欧米に遅れをとってはならない」という思想（＝明治～大正期にかけての「南進論」）

### ※民間主導の海外移住

- ・ 明治元年(1868年)：42人がグアムへ、153人がハワイへ移民
- ・ 明治18年(1885年)：日本・ハワイ王国との条約に基づく官約移民開始、9年間で計26回、約2万9,000人が渡航
- ・ 明治20年代～：ミクロネシアへ商業移住

5

5

### \* 日本軍による「南洋」進出の加速化

- ・ 日中戦争(1937～)の泥沼化、アメリカによる鉄・屑鉄、特定石油輸出の許可制化(1940年8月)

※アメリカの石油への依存度:90%(1939)

- ・ 1940年9月～:「日蘭商会」による石油を含む重要物資の購入交渉→1941年6月に打ち切り

表2 日本の石油輸入量と米国からの輸入量の比率

時期	石油 輸入量	米国からの 輸入量	比率
昭和10年 (1935)	345万kℓ	231万kℓ	67%
昭和12年 (1937)	477万kℓ	353万kℓ	74%
昭和14年 (1939)	494万kℓ	445万kℓ	90%

(注) 他の輸入先国は蘭印、ソ連など。  
出所：戦史叢書大本営海軍部・連合艦隊 (2)  
岩間 [2010:73]

6

6

・1940年9月：日本軍は北部仏印(現在のベトナム・ラオス・カンボジア)に進駐

・1941年7月：南部仏印へ武力進駐

...目的：航空基地・港湾基地の獲得、シンガポール攻略と蘭印の占領を準備すること

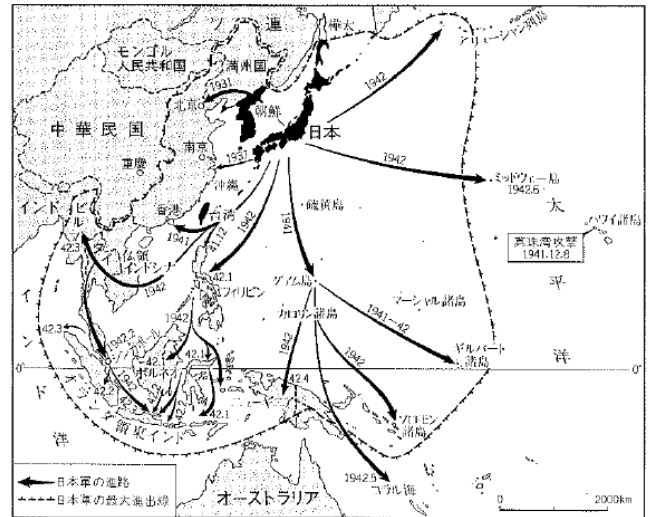
・1941年8月：アメリカによる対日石油輸出の全面禁止

・1942年1月：蘭領東インドへ進出

...1月11日攻撃開始→タラカン島・スラウェシに上陸、2月パレンバン落下傘部隊降下、3月1日ジャワ島3か所に上陸

→3月5日バタヴィア占領

→3月9日オランダ軍降伏



「日本軍の東南アジア進出」和田久徳ほか著(1977)  
『東南アジア現代史Ⅰ 総説・インドネシア』山川出版社, p.40

7

## (2) 日本軍政下インドネシアの社会と教育(1942年3月～1945年8月)

### \* 日本政府のインドネシア占領政策

・豊富な天然資源(特に石油)や農産物の補給地として

・インドネシア、マラヤ、シンガポールは永久確保(=植民地化)する方針

...1943年5月の御前会議「大東亜政略指導大綱」で最終決定、ただし対外的には秘密

(⇔他の東南アジア占領地)



外務省・広報・資料 [https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hyouka/kunibetu/gai/indonesia/kn3\\_01\\_0001.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hyouka/kunibetu/gai/indonesia/kn3_01_0001.html)

8

8

- ・3分割統治

- ①ジャワとマドゥラ(陸軍第16師団)
- ②スマトラ(陸軍第25師団)
- ③その他地域(海軍)

※海軍はボルネオの油田、陸軍はスマトラの油田を保有できるよう分割統治



外務省・広報・資料 [https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hyouka/kunibetu/gai/indonesia/kn3\\_01\\_0001.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hyouka/kunibetu/gai/indonesia/kn3_01_0001.html)

9

9

## \*イデオロギーとしての「大東亜共栄圏」構想

- ・第2次近衛内閣の外務大臣・松岡洋右により初めて使われた語
- ・「東亜新秩序」(日・満・支三国による政治・経済・文化の提携)→「大東亜の新秩序」(南方を加える)→「大東亜共栄圏」
- ・1940年8月：基本国策要綱「大東亜秩序の建設」により発表

- ・根本方針：

「皇国の国是は八紘を一字とする肇国(ちょうこく)の大精神に基き世界平和の確立を招来することを以て根本とし、先づ皇国を核心とし日満支の強固なる結合を根幹とする大東亜の新秩序を建設するに在り 之が為、皇国自ら速に新事態に即応する不拔の国家態勢を確立し、国家の総力を挙げて右国是の具現に邁進す」

10

10

### \* インドネシア占領政策の内容

※日本人 = 「兄」、占領地の住民 = 「弟」という考え方

...より遅れた弟たちを、進んだ兄の文明に同化させる (= 同化政策)

- ・ 日本時間の導入(1942年4月～)、皇紀の導入(1942年 = 皇紀2602年)、宮城遥拝の強制
- ・ オランダ語使用の禁止、「東亜の共通語」として日本語を公用語化
- ・ 「軍票」の導入

11

11

- ・ 民衆動員のための組織づくり

...「3A運動」(～1942)：「Asiaの光 日本、Asiaの守護者 日本、Asiaの指導者 日本」

...民衆総力結集運動「プートラ」(1943年3月～)、「ジャワ奉公会」結成(1944年3月～、大政翼賛会をモデルに)

...隣組・青年団・警防団・婦人会の導入(→相互扶助・治安維持・経済統制など)

...民衆の宣撫工作のためのイスラーム指導者の利用 ⇔ 政党活動の禁止

- ・ 郷土防衛義勇軍(PETA)の結成...ジャワ(1943)やバリで。約3万5千人、日本精神の注入

・ 日本式の学校教育制度の導入

12

12

## \*日本軍政下の教育

### <学校教育>

- ・オランダ時代の学校はすべて廃止（ただし、村落学校のみ3年制初等国民学校として残す）

⇒6・3・3制の導入

...日本の国民学校をモデルに6年制国民学校を設置(1・2年生は地方語、3年生以上はインドネシア語で教授)

...すべての原住民が等しく学ぶ(⇨オランダ時代の身分や民族による区別)

...日本語(授業時数の7割)、日本史、修身、勤労奉仕、軍事教練

### <その他の教育>

- ・日本語学校の設立...日本人教師の派遣、教科書編纂
- ・一般人向けの社会教育...講習会、ラジオ講座開設など

※しかし実際には日本語はあまり普及せず、代わりに行政・教育・出版を通してインドネシア語が普及

13

13

## \*インドネシア人の対日観

- ・「ジョヨボヨ王の予言」(12世紀東ジャワ・クディリ朝の王の書『バラタユダ』)  
...「我が国は3世紀にわたって白い皮膚の人々に支配されるだろう。その後、黄色い皮膚をもつ手足の短い人々がやってきて、トウモロコシの寿命と同じ期間だけ我が国を支配するだろう。」(トウモロコシの寿命≡「非常に短い間」)

→予言を信じていた人々は、最初、自分たちを解放してくれるであろう日本軍を歓迎したとされる

→しかし、次第に日本軍政に失望し、反発

14

14

**\* 日本軍に対する3つの立場[後藤 2014 :131]**

①日本と欧米の対立を利用して、自分たちの独立の可能性を積極的に広げていこうとする立場  
(のちの初代大統領スカルノなど)

②「アジア回帰」「アジア新秩序」といった日本のスローガンは、ファシズムが仮面をかぶったものにすぎないとし、日本の対アジア政策の本質は朝鮮や台湾の現状を見れば明らかであり、これと手を組むことはできないという立場

(のちの初代副大統領M.ハッタなど)

③日本が唱えているアジア主義とインドネシアの独立を目指すナショナリズムの間には、重なり合う点があるとの立場から、日本との提携が可能だとして日本との協力を模索する妥協的な立場

(のちの初代外務大臣スバルジョなど)

→しかしいずれの立場にせよ、実際には強大な軍事力を持つ日本と協力せざるを得ず、結局は日本との協力を通して独立の基盤を固めていくといった現実主義的路線に収斂していく<sup>15</sup>

15

**\* 日本軍占領により起こった変化[倉沢 2002:52-53]**

・「不屈」のオランダ人の降伏、日本軍の反オランダ宣撫工作、オランダ語の禁止とインドネシア語の普及、郷土防衛義勇軍の訓練など

→インドネシア民族意識やアジア人としての自信の強化、ナショナリズムの高揚、のちの独立国家を指導する人材の育成

・複線型教育制度(エリート教育と大衆教育)の一本化、能力主義にもとづく人材登用など

→伝統的な支配階層の基盤崩壊、社会の流動化

・全国一地方組織の結成(ジャワ奉公会、隣組、青年団、警防団、婦人会など)

→日常生活(村落)と、より大きな世界(中央組織)が結合、「国民」意識の形成を促す

・民衆の宣撫工作のためにイスラーム指導者を利用

→イスラーム指導者の政治化

16

16



- ・日本軍優先の食糧・燃料調達、輸入の途絶

→生活物資の不足

- ・ジャワを中心とした労務供出 (インドネシア語で「ロームシャ」)

...スマトラ、ボルネオ、マレー半島、タイ・ビルマ(泰面鉄道建設現場)などでの強制労働

...推定30万人、うち7万人が命を落としたともいわれる

→農村労働力の減少、農村の疲弊

- ・宮城遥拝...メッカに向かって礼拝をおこなうムスリムにとって受け入れがたい行為

17

17

### (3) 現代インドネシアの社会と教育

#### \*インドネシア共和国の誕生

- ・1944年9月：日本軍指導下で独立準備委員会発足

・1945年8月17日：独立宣言、9月にスカルノ内閣発足→オランダは認めず、独立戦争へ(郷土防衛義勇軍や日本人も参加)

「宣言 我々インドネシア民族はここにインドネシアの独立を宣言する。政権の委譲その他は迅速かつ正確に行われるべし。2605年8月17日 ジャカルタにおいて インドネシア民族の名において スカルノ、ハッタ」

- ・1949年8月～11月：ハーグ円卓会議により独立承認

...背景に国際社会からのオランダ批判、アメリカによるオランダへの経済援助停止の圧力など

...オランダは交渉の過程で、当初、インドネシア側に61億ギルダー(17億3200万ドル相当)の債務負担を要求し、最終的には43億ギルダー(11億3000万ドル相当)の債務をインドネシア側が継承することで合意

18

18

### \*その後の展開

- ・ 1949-1965年：スカルノ体制期、指導される民主主義、共産主義への接近※

※1965年「9.30事件」…「軍事クーデター未遂」に端を発した一般民衆による共産党関係者の大虐殺(推定50万～100万人が殺害される)

- ・ 1965-1998年：スハルト体制期(開発・独裁)
- ・ 1998年5月～：民主化期

19

19



### インドネシア共和国概要 (Republic of Indonesia)

- 面積：約192万平方キロメートル(日本の約5倍)
- 人口：約2.55億人(2015年)
- 首都：ジャカルタ(人口1,017万人：2015年)
- 民族：大半がマレー系(ジャワ,スンダなど約300)
- 宗教：イスラム教(87.21%),キリスト教(9.87%:うちプロテスタント6.96%,カトリック2.91%),ヒンズー教(1.69%),仏教(0.72%),儒教(0.05%),その他(0.50%)(2016年)
- 言語：インドネシア語
- 政体：大統領制,共和制
- 元首：ジョコ・ウィドド大統領(任期5年,2019年10月20日再任)



外務省HP (2020年3月23日最終閲覧) 20

20

## 神鳥ガルダと建国五原則(パンチャシラ)



- 唯一神への信仰
- 公正で文化的な人道主義
- インドネシアの統一
- 合議制と代議制における英知に導かれた民主主義
- 全インドネシア国民に対する社会的公正

### ※国家課題としての「多様性の中の統一」

...巨大な領域(東西約5000キロ)、膨大な人口、地理的分散(約14,000の島々)、宗教的多様性、民族的多様性(約250 ?)、言語的多様性(200 ? 400 ?)

21

21

## 参考文献

- 梅原悟監修・世界教育史研究会編『世界教育史体系6 東南アジア教育史』講談社, 1976
- 鏡味治也編著『民族大国インドネシアー文化継承とアイデンティティ』木犀社,2012
- 倉沢愛子『日本占領下のジャワ農村の変容』草思社,1992
- 倉沢愛子「日本占領下のインドネシア-総動員体制にゆれた伝統社会」池端雪浦 [ほか]編『岩波講座東南アジア史 第8巻』2002,pp.33-55
- 後藤乾一「日本のインドネシア占領を考える」立教大学アジア地域研究所主催 公開シンポジウム「日本占領下の南洋」(2014年11月16日)
- 小林泉「南洋群島と日本による委任統治」『島嶼研究ジャーナル』第9巻1号,2019-11,pp.7-11.
- 小林英夫『日本軍政下のアジアー「大東亜共栄圏」と軍票』岩波書店,1993

22

22